

講義名	オ)情報通信産業論			
担当教員	福井 誠			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考

主題と概要

情報産業と通信産業は現在では融合し、広い分野を持つ基幹産業になりました。この数年の変化を見ても、テレビ放送がデジタルに完全移行したり、クラウドが広く普及したりとめまぐるしく変化している産業です。このような変化は今後も継続しさらに大きく姿を変えらると思われれます。

この講義では、このような時代の転換点にある情報通信産業を、消費者向けインターネットサービスを中心に解説します。インターネットサービス事業者の軌跡を理解する中で、通信インフラ、システム開発、周辺サービス提供企業、コンテンツ産業など多様な産業者間との関係について理解を深めます。これらの講義内容を通して、情報通信産業がわれわれの生活にどのように関わっているのかを理解するとともに、ネットとリアル、放送と通信、通信とWebなど様々な領域が融合し姿を変えていくさまを理解し、アフターコロナの時代に情報通信産業が向かってであろう方向を探っていきたいと思えます。

到達目標

産業の概念が理解できる。
 その中で情報通信産業の位置づけと変遷を理解し、将来の姿を描くことができる。
 情報通信産業に属する産業の構造を理解し、その事業モデルを理解できる。それらの産業の可能性だけでなく、限界や危険性も理解できる。

提出課題

講義中に4-5回程度レポートを実施する。期末試験は実施しないので、必ずこのレポートは提出すること。オンラインの場合はこれ以外に視聴確認を行う。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

評価についてのフィードバックは実施しないので、不安があればメールなどで尋ねてください。

評価の基準

期末試験は実施せず、上記の講義中レポートに視聴状況をあわせて評価する。
 レポートの評価はABCの3段階で行う。なので、毎回レポートを提出していても内容によっては合格点に達しない場合もある。配点は公表しない。

履修にあたっての注意・助言他

【この欄は確実に読んでおくこと】

オンライン、対面に関わらず諸連絡やレポートの提出はRyukaPortalにて行う。
 オンラインクラスはオンデマンド形式で実施する。
 具体的には、RyukaPortalに講義が実施される予定の日程の翌日までに資料をアップし、翌週がレポートの提出期限となる。なおレポート以外に毎回資料の視聴を確認するための報告を求める。
 講義資料はパワーポイント、その他のドキュメントと、これに同期した講義の録音（音のみ）を想定しているが教室の環境などによっては方式を変えることがあるので注意されたい。
 このあたりの詳細については初回および2回目の講義時に説明する予定なので、確実に視聴すること。

教科書	.使用しない.				

プリント資料及び参考文献

その都度配布、指示します。

授業計画

1. ガイダンス
2. 産業とは
3. 情報通信産業
4. マスマテディア
5. 遊歩産業分類
6. 広告の事業モデル
7. これからのネット
8. 通信とコンピュータの歴史
9. インターネットの歴史
10. Google
11. Amazonと楽天
12. Web2.0とSNS
13. AI
14. まとめ
15. レポートまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義中に紹介したWebサービスなどは各自が閲覧可能である。講義の後はそれらのサービスを試用するなどして講義の意味に対する理解を深めてほしい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

2020年度は、入力不要

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

オンデマンド形式のため双方向性を確保することは難しいが、連絡先として示したメールなどで随時質問など受け付ける。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。IT産業やユーザ企業の情報化コンサルティング経験を活かし実際のケースなどについて言及する。

備考